

第 15 回日仏原子力専門家会合（N-20）の開催について（案）

平成 20 年 7 月

日本原子力産業協会

【最近の原子力動向】

- 地球温暖化問題と昨今の原油価格高騰によるエネルギー安定供給不安に対する有効な対策の一環として、原子力エネルギーの重要性に対する認識が向上し、米国をはじめとする世界各国で、原子力発電の見直しの機運が高まっている。
- 原子力発電をまだ持たない国々のなかに、温暖化対策とエネルギー確保の有力手段として原子力エネルギーの新規導入に意欲を示す国が増えている。日本においても国内の原子力発電開発の着実な推進とともに、これら新規導入国に対する積極的な支援と海外展開が期待される。
- 世界的に核拡散が懸念されるなか、IAEA の燃料供給保証構想、米国の GNEP（グローバル原子力エネルギーパートナーシップ）をはじめとする諸方策が提案され、核不拡散、核燃料サイクル開発についての国際協調の必要性と可能性が認識されている。

【N-20 会合の趣旨】

- 国内にエネルギー資源の乏しい日本とフランスは、原子力発電を主要エネルギー源として開発を進めているが、その両国においても原子力を取り巻く環境は厳しく複雑である。このような内外環境の中で、原子力先進国として日仏両国が果たす役割は重要であり、世界から注目されている。
- 当協会は、日仏両国の関係者が、原子力開発計画、その背景となる基本方針、また当面する諸問題について個人の立場で意見や情報を交換することにより、双方の相互理解と協力を促進し、ひいては世界の原子力平和利用開発の円滑な推進に寄与することを目的として「日仏原子力専門家会合（N-20）」を開催している。
- N-20 会合は、平成 3 年（1991 年）以来ほぼ毎年 1 回、日本とフランスで交互に開催している。組織を代表するのではなく個人の立場で参加する日仏それぞれ 10 名程度の限られた、ほぼ固定メンバーが参加し、踏み込んだ議論を行っている。
- N-20 会合は非公開だが、議論の成果を共同声明としてまとめ、公表している。

【第 15 回 N-20 会合】

- 1) 期 日： 平成 20 年 10 月 2 日（木）～3 日（金） N-20 会合
(10 月 1 日（水）は、IAEA 海洋放射線環境研究所 訪問)
- 2) 場 所： フランス ニース（パレ・ドゥ・ラ・メディテラネ）
- 3) 議 題： (1) 前回会合からの進捗報告と両国の政策
(2) 高速炉開発
(3) 国際状況
(4) 燃料サイクル問題
- 4) 日本側・フランス側出席予定者： 別紙のとおり 以上